

## 平成27年度 会費の決算状況について

平成27年度の会費部門における収入としては、会費収入が昨年度比で約20万円の収入減の約1,039万円となりました。会員数は年間通じて少し減少となりました。

**大阪市手をつなぐ育成会(会費事業) 資金収支計算書**  
**(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日(単位:円)**

勘定科目		金額	
事業活動による収支	収入	経常経費補助金収入	1,302,300
		利用者負担金収入	2,080,232
		会費収入	10,387,820
		講師等謝礼収益	17,100
		受取利息配当金収入	749
		事業活動収入計(1)	13,788,201
	支出	人件費支出	0
		事業費支出	6,233,657
		事務費支出	6,332,656
		事業活動支出計(2)	12,566,313
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		1,221,888	
に施設整備等	収入	固定資産除却収入	0
		施設整備等収入計(4)	0
	支出	固定資産取得支出	0
		施設整備等支出計(5)	0
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		0
その他の活動	収入	事業区分間繰入金収入	1,323,000
		その他の活動収入計(7)	1,323,000
	支出	事業区分間繰入金支出	0
		その他の活動支出計(8)	0
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		1,323,000
予備費(10)		0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		2,544,888	

前期末支払資金残高(12)	16,443,466
当期末支払資金残高(11)+(12)	18,988,354

一方、支出については、人件費としては計上していませんが、事務費で法人本部の職員が兼務で事務を行っていることから、事務費の手数料の科目に日当相当額を費用として計上しています。

最終的には収支差額として、「当期資金収支差額合計(11)」では、約254万円を計上することができました。

## 平成27年度 決算について

平成27年度では、東成育成園、港育成園、福島育成園と開設以来、着手していなかった外壁を中心とした大規模改修工事を行いました。

8ページに記載の資金収支計算内訳書を用いて決算状況について解説します。

27年度では、法人全体としては「事業活動による収支」の「収入の部」の合計である「事業活動収入計(1)」は、約9億1,695万円となりました。

主なものとしては、「障害福祉サービス事業収入」では、26年度と比較すると約4,419万円の減収となっており、要因としては、各事業所で利用者数の減少ならびに居宅介護事業所での派遣件数の減少が影響しています。また、「委託事業収入」についても、26年度と比較すると約2,848万円の減収となっており、要因としては、前年度でもって西区と港区で実施していました「区障がい者相談支援センター事業」の廃止ならびに法人本部で実施している「親子通所事業」が規模縮小されたことによります。

一方、「事業活動による収支」の「支出の部」の合計である「事業活動支出計(2)」は約9億5,860万円となり、収入と支出の差を表している「事業活動資金収支差額(3)」では、約4,165万円の支出超過となりました。

主なものとしては、「人件費」が26年度と比較すると約4,852万円の支出減となっており、要因としては、法人本部で実施している「親子通所事業」の事業縮小によるスタッフへの報酬減と、居宅会議事業所において、派遣件数減少によるヘルパー給与の支出減が挙げられます。

また、「事業活動資金収支差額(3)」のみを見ると、約4,000万円を超える赤字となっていますが、平成27年度では、建物外壁塗装工事等の大規模修繕工事を各施設で実施し、その費用が総額として約9,200万円が事務費の修繕費として計上されておりますので、この約9,200万円は27年度に限った臨時的支出として考えて、「事業活動資金収支差額(3)」のマイナス4,165万円にこの9,200万円を戻しいれを行い、通常の実業活動としての収支差を再計算すると、約5,035万円の赤字と考えることができます。

なお、27年度に実施した大規模修繕の財源としては、今まで積み立ててきた「施設整備等積立資産」を取り崩して充当をしています。